

令和元年6月24日

桑折町議会
議長 片平 秀雄 様

産業厚生常任委員会
委員長 佐藤 武朗

委員会調査報告書

本委員会に付託された調査事件について、調査報告を下記のとおり、会議規則第77条の規定により報告します。

記

1 調査事件

産業振興策について

2 調査目的

地域産業活性化のため

3 調査の経過

□平成27年11月16日

今後の調査の進め方について協議・検討を行った。

□平成28年5月19日

今後の調査の進め方について協議・検討を行った。

□平成28年6月3日

産業振興課長の出席を求め、本町の産業振興策の今後の具体案等について説明を受けた。

□平成28年11月30日

幕別町農業振興公社視察研修を踏まえた本町の農業振興策について協議・検討を行った。

□平成29年2月10日

産業振興課長の出席を求め、伊達崎幼稚園跡の利活用計画の進捗状況、桑折町振興公社での取組内容と計画の進捗状況について説明を受けた。

□平成29年4月13日

産業振興課長、商工観光推進室長の出席を求め、平成29年度の主な産業振興策について説明を受けた。

□平成29年6月5日

産業振興課長の出席を求め、人・農地プランについて説明を受け、地域整備課長の出席を求め、多面的機能支払交付金事業について説明を受けた。

□平成30年5月18日

産業振興課長の出席を求め、農業振興策に関する担当課の取り組みについて説明を受け、商工観光推進室長の出席を求め、農商工の連携による異業種間交流（産業の6次化）における現状の取り組みと今後のスケジュールについて説明を受けた。

□平成30年10月16日

産業振興課長の出席を求め、新農業委員会体制の活動状況について説明を受け、商工観光推進室長の出席を求め、ふるさと産品の6次化、ブランド化推進事業の進捗について、空き店舗対策の進捗状況について説明を受けた。

□平成31年4月19日

今後の調査の進め方について協議・検討を行った。

□令和元年5月17日

商工観光推進室長の出席を求め、農業振興活動拠点の今後の運営方針について、空き店舗対策事業の進捗状況について説明を受けた。

□令和元年5月30日

委員会調査報告について、協議・検討を行った。

□令和元年6月11日

委員会調査報告について、協議・検討を行った。

4 調査結果

当委員会は、産業振興策の推進について調査を進めてきた。その中で本町は、桃農家をはじめ、関係者の弛まぬ努力の結果、平成から新たな時代、令和につながる連続26年「献上桃の郷」として、本町のブランド力向上に貢献している。

この「献上桃の郷」のブランドイメージを継続することが、本町の更なる各産業の振興につながるものと確信する。今回の報告は、農業政策に絞り調査したものである。

よって、今後の農業振興に関して以下のような支援策等も必要と考え提案する。

1. 「献上桃の郷」の農業の現状に関しては

農林業センサスによると平成2年当時と比べ、農家数は約7割弱の件数。専業農家については4割強の増加となっている。これは、兼業農家が専業農家へ移行したことが理由として考えられる。今後、「献上桃の郷」のブランドを維持するためには一定の専業農家の確保と第一種兼業農家が専業農家になり得るよう、町として更なる支援策等の検討が必要である。

2. 農業の担い手に関しては

現在の農家の担い手としては、家族はもとより各団体の派遣労働力に頼っても産地を維持するだけの労働力は足りていないのが現状である。今後、ますます高齢化が進む中、労働力の確保は難しいものとする。また、担い手を幅広く考えた際、シルバー人材センターや共選所等の短時間労働力の確保も含め、行政、農家、農業団体等も含めた産地全体での対応が必要である。

3. 新規就農者の確保に関しては

親元就農に対しては、年齢要件をさらに緩和した就農支援。町外からの新規就農者に関してはゼロからのスタートであり農地の確保や農機具の準備、生活基盤の安定までの支援策等の施策を講じる必要がある。

4. 「献上桃の郷」の産地を守る環境整備に関しては

本町のブランドイメージの継続には、桃の改植事業等環境整備は勿論のこと、他の樹園地、畑、水田等の整備。また、中山間地においては、有害鳥獣被害、農業従事者の高齢化等により耕作放棄地が増加している。これらに対しての政策的支援を実行し、桑折町全域の環境整備が必要である。

5. その他に関しては

(仮称)桑折町IC周辺には桑折町の農業振興拠点、町外からの新規就農者の研修拠点及び体験農場、産地情報発信基地、交流人口増につながる拠点整備等の計画も検討すべきである。また、福島大学食農学類との連携により、より一層の「献上桃の郷」の魅力と地域振興の構築を図るべきである。